

好評発売中

# かんきつのかいよう病に！

病害防除剤

# 兼商 **クプロシールド**®

®は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標  
農林水産省登録第 24002 号



## かんきつでの使いやすさの 4 つの特長

製品の詳細はこちらから→  
混用例も掲載しています



- ① 作業性のよいフロアブル製剤
- ② 中性に近い製剤のため、他剤と混用性がよい
- ③ 細かい粒子で安定した付着性
- ④ 炭酸カルシウム剤を加用しなくても薬害の懸念が少ない。\*

※2018～2019年に実施したアグロ カネショウ社内試験および展示図においていずれも実用上問題のある薬害の発生は確認されませんでした。

### ■適用病害虫と使用方法 (抜粋)

R3.1月現在

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
かんきつ	かいよう病	1000～2000倍	200～700ℓ /10a	—	—	散布	—
	黒点病 そうか病	1000倍					
	ナメクジ類 カタツムリ類						



かんきつに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用することが望ましいです。ナメクジ類・カタツムリ類に使用する場合、忌避作用が主であるため予防的に散布してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください ●ラベルの記載以外に使用しないでください ●小児の手の届く所には置かないでください

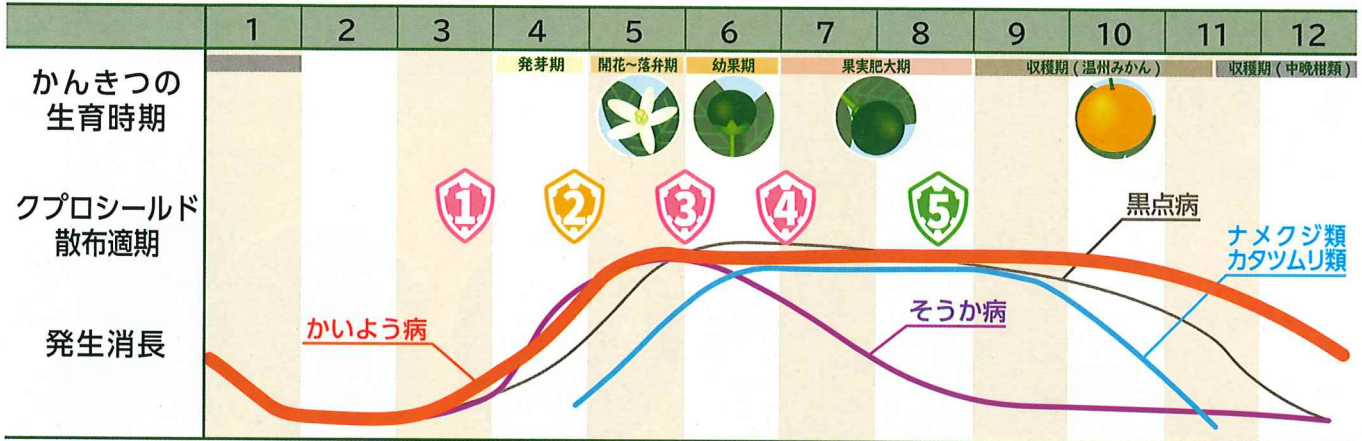




## かんきつ かいよう病発生消長と防除のポイント

### ■かいよう病の発生要因

- 樹上の病斑が主な感染源となり風雨で伝染する。発病適温 25 ~ 30℃。
  - 強風（風速 6 ~ 8m以上）で広範囲に病原菌が飛散。
  - 風傷やハモグリガ幼虫の食害痕も病原菌の侵入口となる。
- ★春季および秋季の温暖多雨、夏における台風襲来が発病を助長する。



### ■かいよう病防除の推奨時期

- 重点防除時期** ① 発芽前（3月中旬～下旬） ③ 花弁落下直後（5月下旬） ④ 梅雨時期（6月下旬）
- 前年多発の場合** ② 開花直前（4月下旬～5月上旬）
- 台風襲来時** ⑤（8月～9月）

### ■クプロシールドの使えるポイント

- マンゼブ剤との混用可能なため ③ ④ の時期（5月下旬～）で使用できます。
- かんきつでは炭酸カルシウム剤を加用しなくても薬害の懸念が少なく、作業性が楽に使用できます。\*
- ② ~ ⑤ の時期はそうか病、ナメクジ類、カタツムリ類、黒点病も同時防除が可能です。

※2018～2019年に実施したアグロカネショウ社内試験および展示圃試験において実用上問題のある薬害の発生は確認されませんでした。

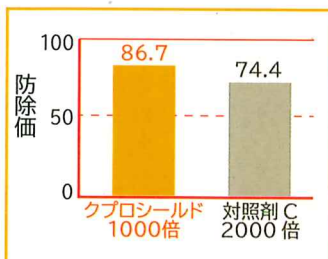
かいよう病を  
主体とした防除が  
おすすめです



### ■委託試験結果 かんきつ

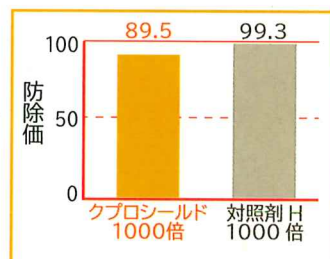
#### かいよう病に対する効果 2017

神奈川県農林技術センター  
品種：レモン（アンユレカ）24年生  
発生状況：中発生  
処理：4/22、5/27、6/17に1樹あたり5ℓを動力噴霧器にて立木全面散布  
調査：7/12に1樹あたり100葉について発病程度別に葉数を算出



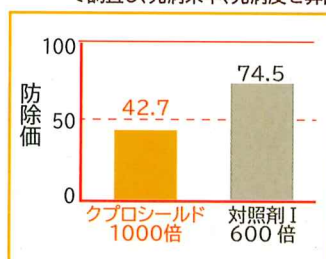
#### そうか病に対する効果 2020

愛媛県農林水産研究所果樹研究センター  
品種：宮川早生 17年生  
発生状況：葉）中発生、果実）甚発生  
処理：4/11、5/22、6/22に1樹あたり8ℓを動力噴霧器にて立木全面散布  
調査：7/17に1樹あたり100果について調査し、発病率、発病度を算出



#### 黒点病に対する効果 2020

長崎県農林技術開発センター  
品種：原口早生 17年生  
発生状況：多発生（接種）  
処理：6/9、7/1、20、8/20に1樹あたり6ℓを動力噴霧器にて立木全面散布。（クプロシールドにはクレフノン200倍を加用）  
調査：10/16に1樹あたり50果について調査し、発病率、発病度を算出



#### ナメクジ類に対する効果 2020

愛媛県農林水産研究所果樹研究センター  
品種：愛媛果試第28号 3年生  
発生状況：中→少発生  
処理：7/2に1樹あたり0.5ℓを動力噴霧器にて立木全面散布。  
調査：処理前、2日後、4日後、8日後に主幹または主枝分岐部にナメクジ誘殺トラップを設置し、誘引された個体数を調査

